

2006年12月期中間決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

2006.8.15

www.cosmobio.co.jp

2006/8/15

JASDAQ
Listed Company 3386

目次



1. 会社概要

2. 事業の内容

- 事業の形態
- 商品説明
- 2006年中間期のトピックス

3. 2006年12月期中間決算の概要

- 決算概況(損益計算書)
- 経常利益の対前年変動要因
- 売上高推移
- 商品分類別売上
- 商品分類別売上増減要因
- 営業利益の推移
- 経常利益の推移
- 決算概況(貸借対照表)
- 2006年度業績予想
- 株主向け施策

4. 事業環境認識

- 2006年環境動向

5. 将来目標

6. 2006年度事業計画と中間期における状況

- 先端商品の導入
- 販売体制の強化
- 質の高い情報発信と顧客サービス
- 自社ブランドの確立
- 輸出の拡大

2006/8/15

2

1. 会社概要

社名: コスモ・バイオ株式会社
 本社所在地: 東京都江東区東陽2丁目2-20
 代表者: 代表取締役社長 原田 正憲
 設立: 1983年8月
 資本金: 898百万円
 事業内容: バイオ研究用試薬、機器、臨床検査薬の販売
 従業員数: 68名 (2006年 6月末)
 他パート・派遣社員: 32名(1-6月平均)
 売上高: 5,498百万円(2005年12月期)



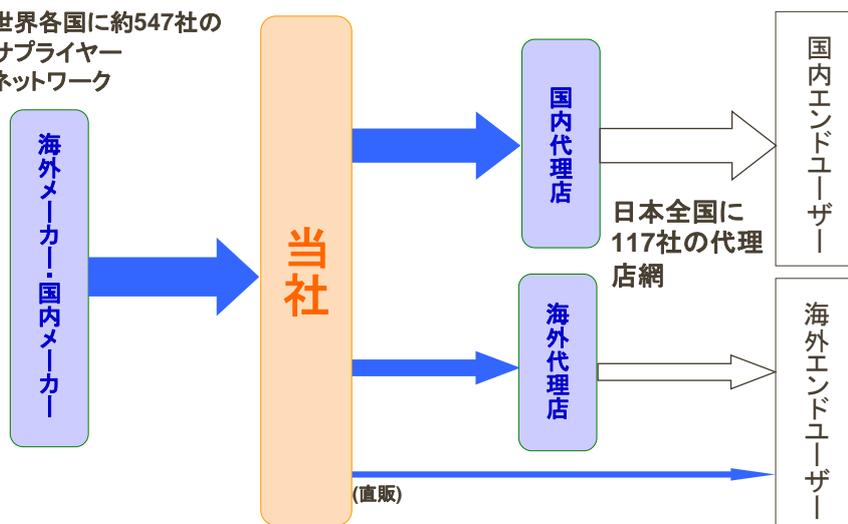
2006/8/15

3

2. 事業の内容

事業の形態「バイオの専門商社」

世界各国に約547社の
サプライヤー
ネットワーク



注: 数字は2006年6月末時点のものです。

2006/8/15

4

バイオ研究とは

- **ゲノム研究**
 - 生物多様性の解明と比較ゲノム解析の推進
 - ゲノム機能解析研究の推進とタンパク質構造・機能解析の推進
- **発生・再生研究**
 - 生体の発生・神経やその他器官の機能分化機構の解明
 - 幹細胞を操る技術の解明
- **脳研究**
 - 脳のシステムを明らかにする脳神経系の構築原理の解明
- **がん研究**
 - 発がんとその防御機構の解明
 - がんの治療や予防に関する研究
- **老化に関する研究**
 - 老化の分子機構の解明
 - 寿命規定因子の探索
- **植物・環境・食料研究**
 - 植物の環境応答におけるシグナル伝達機構
 - 環境ストレス耐性、耐病性のメカニズムの解明



2006/8/15

5

2. 事業の内容

商品説明「代表的な商品 試薬」

- **汎用試薬(バイアル単位で販売)**
 - 抗体
 - 売上の45%を占める商品群。商品数約14万品目を取り揃える
 - その他
 - ホルモンなどの生体内物質、培地添加剤、ケミカルなど
- **応用試薬(用途に合わせて試薬等をセットにしたもの)**
 - 遺伝子
 - 遺伝子解析、タンパク質発現等の研究で用いられるキット
 - その他
 - 生体内物質や環境汚染物質の検出定量キット等



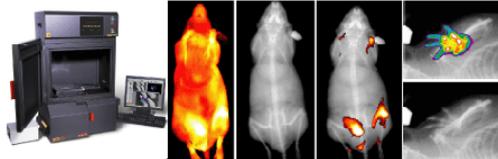
2006/8/15

6

商品説明「代表的な商品 機器、臨床」

■ 機器

- バイオ研究に用いられる機器及び器材
超音波細胞破碎装置「Bioruptor」
電気泳動装置「i-MyRun」
X線イメージシステム など



■ 臨床検査薬

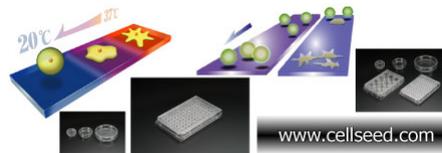
2006年中間期のトピックス

■ 2月 株式会社バイオマトリックス研究所への出資

- 株式会社バイオマトリックス研究所は、東京理科大学発のバイオベンチャー企業として、抗体作成に関する独自の技術を持ち、ライフサイエンス研究開発分野の成果を製品化して研究者へ貢献し、人類の健康増進に寄与することを目的としております。
- 当社の商品ラインナップに一層広がりを持つこと、また出資により将来的な連携を深める一歩になることを目的として、同社の第三者割当増資を引き受けることといたしました。

■ 4月 株式会社セルシード細胞培養器材「セル」シリーズの国内独占販売の開始

- 株式会社セルシードは、東京女子医科大学発のベンチャー企業で、再生医療事業と再生医療支援事業を展開しております。
- 同社は温度応答性ポリマーや超親水性ポリマー等、各種ポリマーを各種素材に固定化する独自のナノ表面設計技術を細胞培養器材に応用し、酵素処理を行うことなく温度処理のみで細胞を無傷に回収する「レプセル」を始めとした、独自で付加価値の高い、研究用の細胞培養器材「セル」シリーズを製造販売しております。
- 当社の商品ラインナップをさらに拡充することを目的として、2006年4月1日より国内における独占販売を開始いたしました。

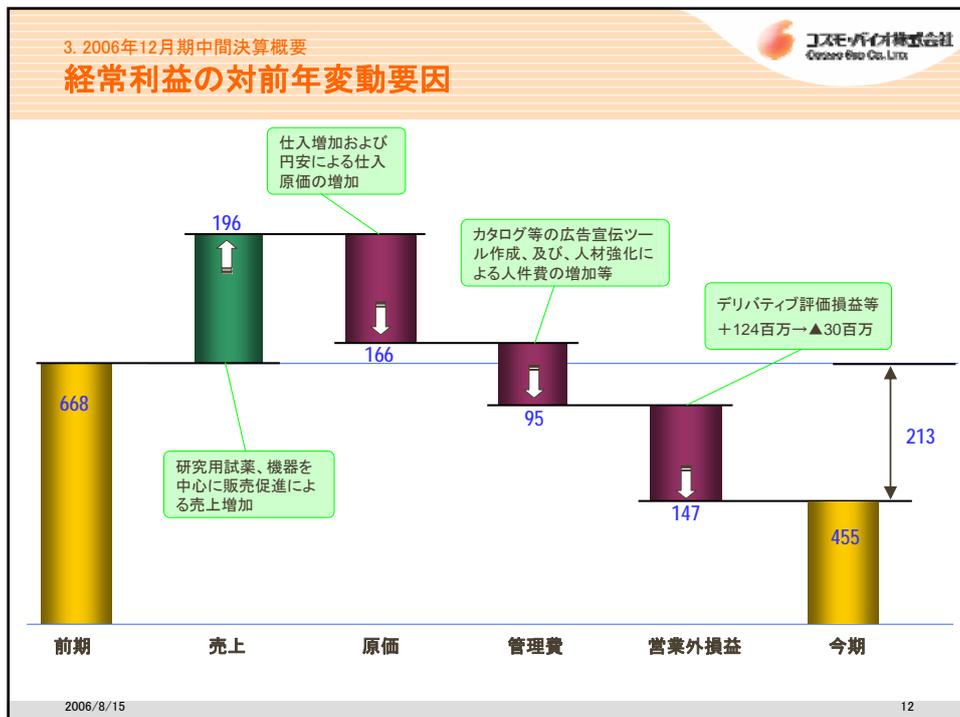


2006年12月期中間決算の概要

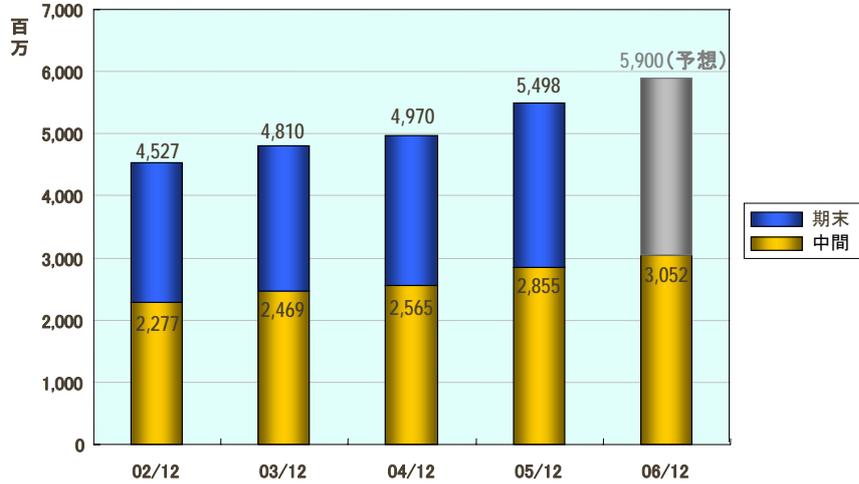
3. 2006年12月期中間決算概要
決算概況「損益計算書(非連結)(前年同期比)」

(百万円)	06/06実績	05/06実績	増減	増減比
売上高	3,052	2,855	196	6.9%
売上原価	1,711	1,544	166	10.8%
売上総利益	1,341	1,310	30	2.3%
販管費	831	735	95	13.0%
営業利益	509	574	▲65	▲11.4%
営業外収益	3	128	▲125	▲97.2%
営業外費用	57	35	22	64.5%
経常利益	455	668	▲213	▲31.9%
特別損益	3	1	2	163.7%
税引前中間(当期)純利益	458	668	▲211	▲31.5%
法人税等	195	268	▲73	▲27.4%
中間(当期)純利益	263	401	▲137	▲34.2%
一株当たり中間(当期)純利益	8,906円 92銭	16,772円 79銭	-	-

2006/8/15 11



売上推移

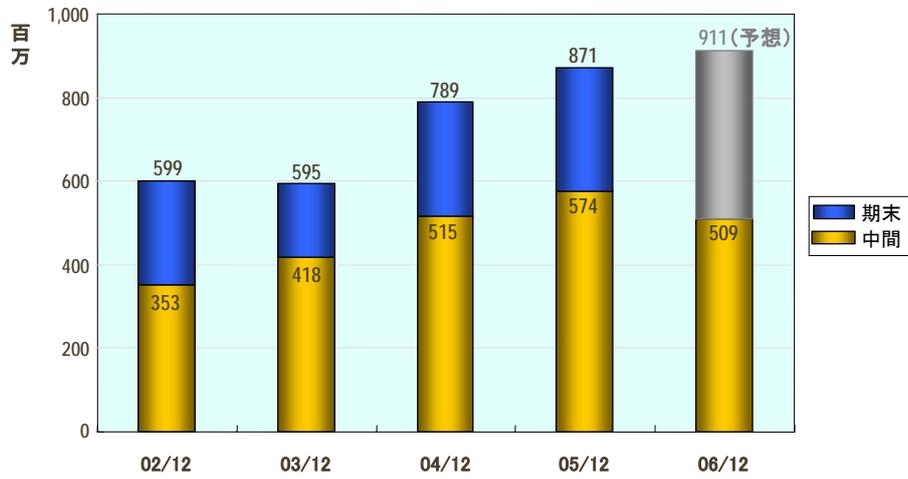


商品分類別売上

(百万円)	06/06実績		05/06実績		増減	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
研究用試薬	2,761	90.5 %	2,582	90.4 %	179	6.9 %
汎用試薬・抗体	1,380	45.3 %	1,293	45.3 %	87	6.7 %
汎用試薬・その他	421	15.1 %	429	15.0 %	▲ 8	▲ 2.0 %
応用試薬・遺伝子	167	5.4 %	156	5.5 %	13	8.7 %
応用試薬・その他	792	24.7 %	702	24.6 %	86	12.4 %
研究用機器	193	6.3 %	170	6.0 %	23	13.7 %
臨床検査薬	97	3.2 %	102	3.6 %	▲ 5	▲ 5.4 %
合計	3,052	100 %	2,855	100 %	196	6.9 %

3. 2006年12月期中間決算概要

営業利益の推移

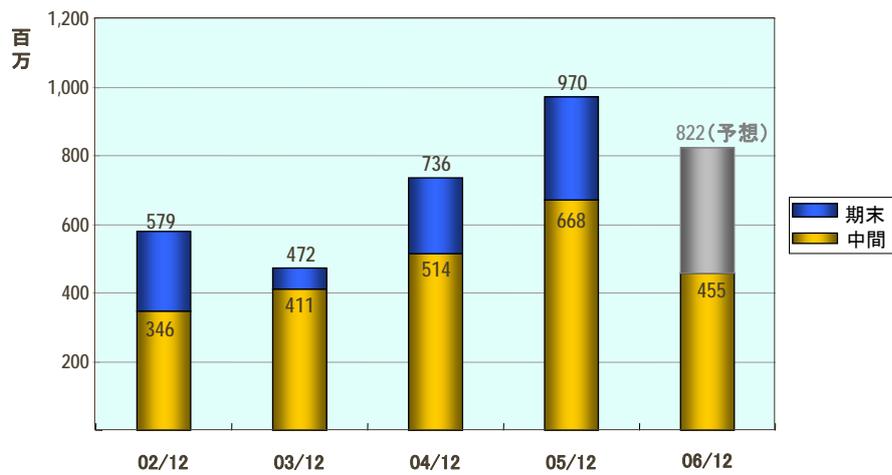


2006/8/15

15

3. 2006年12月期中間決算概要

経常利益の推移



2006/8/15

16

決算概況(B/S)

(百万円)	06/06実績	05/12実績	増減額 (▲ 減)
総資産	5,006	5,190	▲ 184
負債合計	986	1,300	▲ 314
純資産合計	4,020	3,890	129

総資産

現預金の減少	▲ 65
営業債権の減少	▲ 30
有価証券の減少	▲ 67
たな卸し資産の増加	29 等

負債

借入金の返済	▲ 99
未払法人税の減少	▲ 83
営業債務の減少	▲ 60 等

純資産

繰越利益剰余金の増加	131 等
------------	----------

2006年12月期業績予想

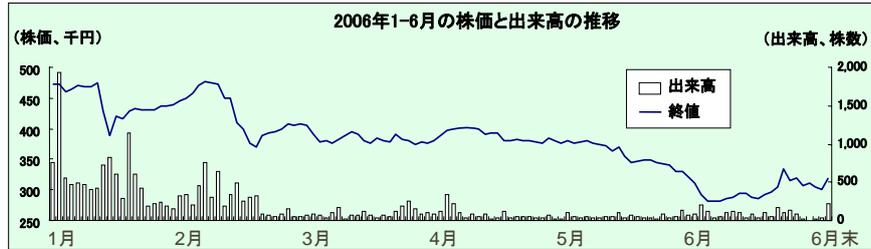
(百万円)	06/12予想	05/12実績	増減	06/06実績
売上高	5,900	5,498	502	3,052
営業利益	911	871	40	509
経常利益	822	970	▲ 147	455
当期純利益	472	575		263
一株当たり当期純利益(*)	7,612円 94銭	10,748円 42銭	-	4,453円 46銭

(*) 2006年8月11日開催の取締役会において、2006年10月1日をもって普通株式1株を2株に分割することを決議しており、1株当たり予想当期純利益につきましては、当該株式分割の影響を反映しております。なお、当該株式分割を反映させない場合の1株当たり当期純利益(通期)は15,225円89銭、2005年12月期実績21,496円85銭、2006年中間期実績は8,906円92銭となります。

株主向け施策

■ 株式分割 (1:2)

- 投資単位の引き下げと、流動性の向上を目的として、本年9月末日を基準日とする株式分割を決定



■ 配当予想の変更

- 普通配当1,900円(分割前3,800円)に特別配当600円を加えて、合計2,500円(分割前5,000円)とすることを予定

事業環境認識と今後の計画

【市場動向の見通し】

- 現状の試薬の国内市場規模は700～800億円、機器は900～1000億円と推計される。
- また今後の市場成長率は4～5%と見積られる。

【今後想定される機会】

- 大学・研究機関の研究は、政府の後押しもあり、今後も活発に推移する
- 企業の研究活動は、ベンチャーも含め、今後ますます拡大する
- 新たなバイオ技術の台頭が、市場を拡大する

【今後想定される脅威】

- 競争環境のグローバル化。海外サプライヤーおよびディストリビューターによる国内販売への進出。
- サプライヤーの動向(M&A等)による商品販権の消失。
- 価格競争の激化による単価下落。

■ 国の科学技術予算の動向

- 平成18年度における国の科学技術予算は、他の予算が削減される中で、科学技術振興費として増加。
- 第3期基本計画の骨子にもあるように重点4分野(ライフサイエンス、IT、環境、ナノテク)については予算が増加。

■ 企業の研究投資

- 大手製薬30社の平成17年度の研究費は対前年12.3%増加した、景気回復と共に2006年度も研究開発費は対前年105%を確保する見通し。

売上100億円企業を目指して



コア事業の強化「先端的商品の導入」

・開拓力の継続的強化

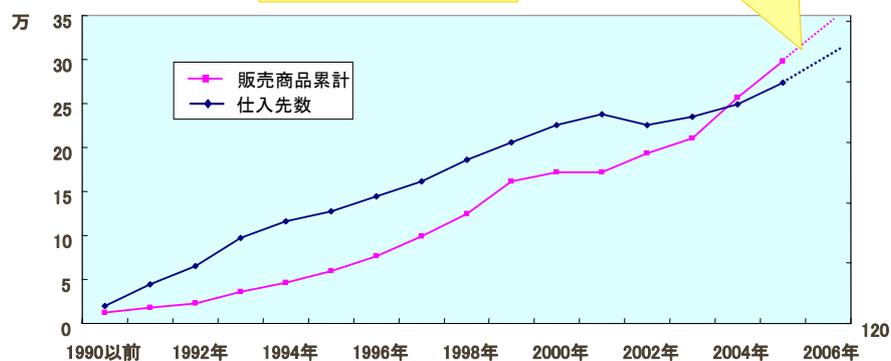
- 開発部の商品探索力強化
- COSMOBIO USAの利用



新規仕入先 37社
新商品 約6万3千品目



2006年6月末現在
仕入先 547社
取扱商品数
約33万8千品目



コア事業の強化「販売体制の強化」

- 製薬企業向けを中心に、創薬支援の一環である受託解析サービスや、提案型営業を進めるなど、市場の大きい民間企業への取り組みを強化し、民間企業への販売比率を高める。



企業向けの販売比率が上昇

- 他社と差別化できるユニークな機器商材を開拓して、試薬販売との相乗効果を狙う。そのために、機器の新商材の開拓、販売力強化と提案型営業を進める。



・イメージングシステムを中心とした商材を開拓
・現在複数のメーカーと交渉も進めている

コア事業の強化「質の高い情報発信と顧客サービス」

- 高度な商品情報をエンド・ユーザーがわかりやすい形で発信する。



・業界で最大級12万品目掲載の抗体カタログを発行
・リン酸化シグナルハンドブックを発行
・定期刊行物コスモバイオニュースに加え、多数のチラシを作成し、積極的なプロモーション活動を行った



- 学術的なセミナーや展示会等でエンド・ユーザーに直接的なプロモーションを実施する

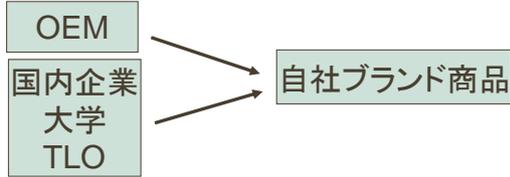


・第3回クロマチンフロンティアーズ・ジャパンを実施
・国際生化学・分子生物学会議及び、再生医療学会でセミナーを主催
・その他計7回の学会等の展示会に参加



コア事業の強化「自社ブランドの確立」

■ 自社ブランド商品の拡充



- ・自社ブランド商品を数百品目追加
- ・複数のメーカーと交渉中

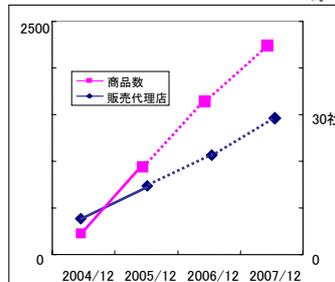
■ 大学の公開講座等に協賛

14の団体に総額約330万円の協賛を実施



輸出の拡大

- ・輸出商材の拡充
- ・海外代理店の拡充
- ・北米西海岸に北米向け物流基地の設置
- ・北米地域を対象としたInternet Shoppingの拡充



ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。